

社会科学習指導案

日 時	平成23年11月11日(金)	1校時
会 場	3年1組教室(北校舎 4階)	
生 徒	3年1組(男20名 女17名 計37名)	
授業者	佐藤和博	

- 1 単元名 第4章 わたしたちの暮らしと経済 (公民的分野) [東京書籍:新しい公民]
中単元 1 わたしたちの生活と経済

2 単元について

(1) 学習者観

- ・この学級の生徒は、社会的事象に対する知識は学年の中で比較的定着している方ではあるが、社会科学習に対する興味関心の高低の差が激しく、授業での発言等が特定の生徒に偏る傾向がある。また、表現活動は発言や発表よりも文章で書く活動が得意である。
- ・生徒は、歴史的分野の中で扱ってきた経済史的内容と地理的分野における諸外国との貿易を通じた経済的な概念には触れているものの、実際は、小学校3年生で地域の産業学習における商品の販売や流通について、5年生で国内産業における生産活動を学習して以来の本格的な経済の学習となる。
- ・高度に発展した情報社会の中、生徒は実生活において多くの情報を手にして消費生活を行っているが、生徒自身が経済活動に関わっているという実感は希薄であることが実態である。

(2) 学習材観

- ・経済単元は、生活に密着した題材が多く、生徒にとっても身近であるが、その反面、経済の仕組みが抽象的で系統立てた理解がしにくいと考えられる。
- ・経済活動は、一般的に個人や社会が必要とする商品やサービスを生産し、これらを消費することで生活を成り立たせている人間の活動であり、人間生活の維持・向上にその意義あると捉える。
- ・市場経済における自由競争が激化している現状を踏まえると、現代社会がこのような市場経済の原理で動いている資本主義社会であることへの理解を深めることが今まで以上に必要となる。
- ・高度に発達した資本主義社会で生きていかなければならない生徒たちにとって、経済に対する諸事象や課題について「対立と合意」と「効率と公正」という概念での見方や考え方と関連づけて理解させたり、判断させたりすることが大切になると考えられる。

(3) 学習指導観

- ・本単元では、まず、生徒に身近な消費生活の視点から学習を展開し、流通、生産へと結びつけから、市場経済の考え方や金融の役割などを捉えるさせる。
- ・新学習指導要領の内容を、現行教科書を利用しながら、できるだけ身近で具体的な事例を取り上げて学習を展開し、経済的な事象を捉える見方や考え方の基礎や経済に関する課題を解決しようとする態度を養う。
- ・具体的な事例を通して身に付けた知識を帰納的に考察させ、経済概念(稀少性、トレードオフ、効率と公正、契約、交換、需要と供給、価格、費用と便益など)へと発展させることで思考力を高めたい。
- ・経済活動を個人と社会との関わりを中心に理解させる事を通して、将来生徒たちが、労働し、生産し、消費し、生活していく社会の中で、生活をより向上するための判断力・表現力を高める。

(4) 研究との関わり

- ・「共有の課題」は生徒が経済的基礎的知識を理解する課題と捉え、「ジャンプの課題」としては、生徒の基礎的知識による理解を揺さぶるような新たな資料を提示することによって、社会的事象を「より多面的・多角的に検証できるような課題」や「概念的知識を応用して、社会的事象の変化に対応する

課題」を設定して、基礎的知識を帰納的に経済的な概念的知識へと高めたり、演繹的に活用させたりしたい。

- ・経済の仕組みを捉えさせるための「資料を分析する」知的作業的活動と、経済単元ならではの抽象的な概念を捉えさせるために「考えて判断する」思考操作的な活動をできるだけ取り上げたい。
- ・導入から「共有の課題」設定までは、一斉授業形態で、コの字隊形を基本として生徒たちが互いに聴き合える環境を用意する。また、課題解決に至るプロセスからジャンプの課題への取り組みまでを、グループ活動を取り入れながら、個人作業の協同化を目指し「協同の場」を確保する。

3 単元の目標と評価規準

観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
目標	個人や企業の経済活動に対する関心を持ち、それを意欲的に調べ、個人や企業の経済活動について考えようとする。	個人や企業の経済活動にかかわる様々な事柄から課題を見だし、多面的に説明することができる。	個人や企業の経済活動に関する様々な資料を収集し、必要な情報を適切に選択して、読み取ることができる。	経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、生産や金融などの仕組みや働き、企業の役割と責任について理解し、その知識を書くことができる。
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の消費生活や企業の生産活動、金融について積極的に学ぼうとしたか。 ・今日の経済活動に関する諸問題に着目し、個人や企業の経済活動、金融について追求していたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業には、市場において公正な経済活動を行い、消費者、株主や従業員の利益を増進させる役割があることについて考えることができたか。 ・雇用と労働条件の改善が家計の維持・向上につながることにについて様々な面から考え、その過程や結果を適切に表現したか。 ・金融の機能、意義について様々な面から考え、説明できたか。 ・市場経済や金融にかかわる課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から様々な面から考え、その過程や結果を適切に説明できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の消費生活や企業の生産活動、金融などに関する資料を様々な情報手段を活用して収集できたか。 ・経済活動の意義や市場経済の基本的な考え方、現代の生産や金融などについて必要な情報を選んで読み取ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動の意義が人間の生活の維持・向上にあり、経済は生活のための手段にほかならないことを理解し、その知識を身に付けることができたか。 ・市場経済においては、企業や個人は価格を考慮しつつ、何をどれだけ生産・消費するか選択していることが理解できたか。 ・人々が求める財やサービスを作り出す生産が、企業を中心に行われていることが理解できたか。 ・金融には、家計の貯蓄などを企業の生産活動や人々の生活の資金などとして円滑に循環させる働きがあることが理解できたか。 ・企業は、市場において生産活動以外に社会的に貢献していることが理解できたか。

4 学習指導計画（全17時間）

(1) わたしたちの生活と経済（8）

- ・ショップの経営者になってみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- ・消費と貯蓄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- ・消費者の権利と保護・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2（本時2／2）
- ・流通のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- ・生産のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

(2) 市場経済と金融（9）

5 本時の指導 (4/17)

(1) 目標

- ・消費生活の中に入り込んでいる悪徳商法の種類を、資料から調べ書くことができる。
- ・悪徳商法に対する対処法を考え、消費者としての権利を学ぶとともに主体的に判断しようとする。

(2) 展開

【既習の学習】				
<ul style="list-style-type: none"> ・契約についての概念。 ・日常生活経験およびニュースボックスノート等からの情報。 				
学習活動	学習内容〈資料〉	指導のための工夫	評価の視点・方法	
1 本時の題材に対する関心を持つ。	○悪徳商法の一例を把握 〈映像（キャッチ寸劇）〉	○実際の体験談を寸劇形式用いることで場面理解を助け、学習意欲を高める。 ○【協同】コの字隊形で聴き合う体制をつくる。	<p>〔思・判・表〕正式契約になった場面について自分なりの考えを持つ。(発言・シート) A：論理的に説明できる。</p> <p>〔技能〕資料から悪徳商法や制度や法について読み取ることができる。(観察・シート) A：制度と法の両面で読み取ることができる。</p> <p>〔関・意・態〕ロールプレイに積極的に参加したか。(観察) A：リーダーシップを取っている。</p>	
2 共有の課題を把握する。				
特殊な商法での売買契約は解消できるのか (学習課題1)				
3 共有の課題を追究する。 ・正式契約になった場面を考える。 ・この契約が解消できるのか調べる ・クーリングオフの概要を資料から読み取る。 ・ほかにどんな悪徳商法があるのか調べる。 ・消費者を守るそのほかの制度や法をテキストから読み取る。 ・ロールプレイを行う。	○事例についての検討 〈寸劇シナリオ〉 ○クーリングオフ制度 クーリングオフ出来る商品と出来ない商品 ○悪徳商法の種類 〈教科書・資料集〉 ○「消費者基本法」「PL法」「消費者契約法」「消費者センター」「消費者庁」 〈インタビュー映像〉 ○セールスマンに対する断り方	○【協同】4人グループで、より「聴き合う」体制をつくる。 ○【活動・協同・表現と共有】資料の読み取った場面に線を引かせ、自分の考えをしっかりと持たせた上で、話し合わせる。 ○ワークシートを活用して、効率よく調べられるようにする。 ○具体的な制度について、理解が深まるように盛岡の消費者センターの人の話を聞かせる ○【表現と共有・活動・協同】追体験することを通して、消費者として責任ある行動がとれるようにする。 ○ネット社会で生きる生徒たちの今日の問題を取り上げる。		
4 ジャンプの課題を把握する。	※新たな資料提示 〈架空請求の文書〉			
あなたは、ネットトラブルにどのように対応しますか? (学習課題2)				
5 ジャンプの課題を追究する。 ・文書中の怪しいところを見抜く。 ・賢い消費者について考える。	○消費生活トラブルに対する判断力向上	○できるだけ批判的に資料を観るように指示する。		
【次時や別単元での学習】				
<ul style="list-style-type: none"> ・消費者と生産者をつなぐ流通について学習していく。 ・本時の学習を生きた知識として、自身の消費生活で生活の維持・向上を図る手立てとしてもらいたい。 				